

社会課題解決へ「生きがい」の追究

アクタガワグループ(本社静岡市葵区)はこのほど、創立25周年を迎えました。県内7社28施設112事業所の運営指針となるグループスローガンを「五感の生活」と定め、社会課題と向き合う経営理念を明確に示しました。このスローガンに込めた思いなどについてアクタガワホールディングスの芥川崇仁代表取締役社長に聞きました。

〈企画・制作／静岡新聞社地域ビジネス推進局〉



株式会社アクタガワホールディングス
代表取締役社長 芥川 崇仁氏

「五感の生活」に込めた企業メッセージ

「五感の生活」をグループスローガンに定めたのはなぜですか。

「五感の生活」とは「豊かで成熟したライフスタイル」を意味していて、「人間の生きがい」を追究することにより社会課題を解決しようという決意を表しています。

私たちは、五感を通して外界と繋がっています。近代文明は、意識を外界に向かって究め尽くすことで、便利で快適な社会を築き上げました。しかし、その一方で、近年では人間の存在を脅かすような多くの問題を引き起こすこととなりました。そこで私たちは、外界だけでなく、もともと内面に意識を戻し、人間のあるべき姿と環境を見つめ直すことが大切だと考えています。そうすることで、本来の自分に目覚め、生きがいを感じるようになるのではないのでしょうか。そして、その生きがいを追究することが「五感の生活」の目的です。「五感の生活」には、3つの価値観が反映されています。一つ目は「効率よりも自然のリズム」です。スピードや効率を重視するあまり、人間本来のリズムを失ってしまうことになりかねません。人間も自然の一部であると感ずることが大切です。二つ目は「複雑よりもシンプル」です。なんでもやろうとすると、人生は複雑になりがちですが、一つのことに没頭してシンプルに生きる環境を整えてほしいと思います。今ここに感覚と心を一致させることが大切です。最後は「思考よりも五感」です。あれこれ考えすぎず、時には何も考えず受け

物質的な豊かさより内面重視へ意識転換

「生きがいを感じるには内面の意識が必要でしょうか。」
物質的な豊かさよりも内面的な豊かさによって、生きがいや働きがいを生み出していきたいと考えています。最近よく耳にする「ウェルビーイング」という言葉は心身と社会的な健康が満たされた幸福な状態を指していますが、それだけでは十分ではないと考えています。「幸福」とは環境や状況など外的要因で決まりますが、「生きがい」は内的要因によるものです。富や名誉、人間関係などで何かを得たときに感じる幸福は一時の感情であり、生きがいは、何かに打ち込んでいるときに味わえる精神的な豊かさではないでしょうか。「それでも人生にイエスと言う」(V.E.フランクル著)という本があります。ナチスのアウシュビッツ強制収容所での悲惨な体験を経てもなお前向きに生きることを訴えている、極限の状態でも深く傷付いても人生が生きがいを感じられると思われ、黒澤明監督の映画「生きる」でも、がんと余命宣告された主人公が生きることに真の意味を見出すという生きがいについての哲学が描かれています。禅宗の言葉である「知足」は、我慢せよとい

「働きやすさ」から「働きがい」の追究へ

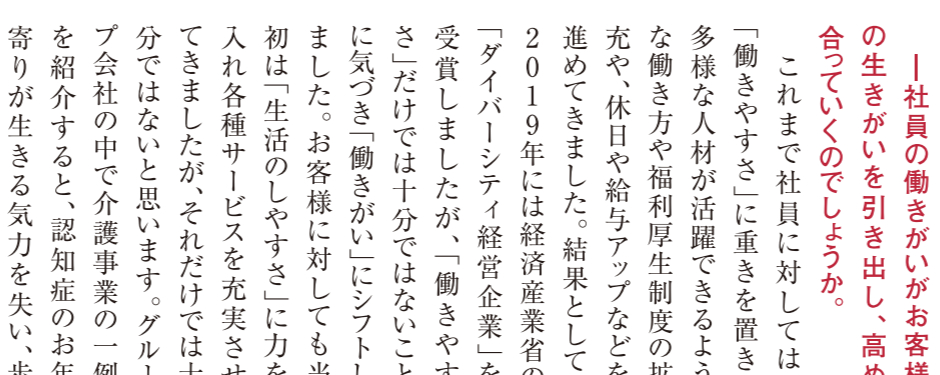
「社員の働きがいがお客様の生きがいを引き出し、高め合っていくのでしょうか。」
これまで社員に対しては、「働きやすさ」に重きを置き、多様な人材が活躍できるような働き方や福利厚生制度の拡充や、休日や給与アップなどを進めてきました。結果として、2019年には経済産業省の「ダイバーシティ経営企業」を受賞しましたが、「働きやすさ」だけでは十分ではないことに気づき、「働きがい」にシフトしました。お客様に対しては、初め「生活のしやすさ」に力を入れ各種サービス充実させてきたのですが、それだけでは十分ではないと思います。グループ会社の中で介護事業の一例を紹介すると、認知症のお年寄り

う意味ではなく、足りなくても受け入れてしまえば、無限の広がりをもちます。できる限りという意識改革の勧めなので、物事をどう捉えるかは個人の自由です。臨済寺の老師に「小水の魚にも楽しみあり」と教えていただきました。どのような環境や状況であっても楽しみを見出すのは可能だということだと思えます。コロナ禍で、世界中の人々が命の危険を感じ、不自由な時期を過ごした今だからこそ、このようなグループスローガンを経営理念として凝縮させた意義があると思えます。

くこともままならない状態に陥っていました。お客様の生きがいを探るなかで、孫が大好きなことを知った社員が、孫の通学路での交通安全の旗振り提案しました。すると、これまで消極的だった方が見違えるようにやる気を出して、ハピリに励むようになり、孫の通学路まで歩いて行つて旗振りできるようになりました。このようにお客様に「生きがい」を感じていただくような質の高いサービスを目指すことが私たちの目指すサービスであり、それが社員の働きがいになっていきます。

各社の社会課題解決に「向き合う」自覚

「今後、グループスローガンをどのように事業活動に結び付けていきたいとお考えですか。」
アクタガワグループは、現在、様々な事業に挑戦しています。しかしながら、それは、単に、介護事業、保育事業、人材紹介、派遣事業、飲食事業、WEBマーケティング事業等を行っているのではなく、各社が日本の社会課題の解決に向けて事業を行っているという自覚が必要だと考えています。各社が、各事業において、これまでの「当たり前」を見直し、代替案を提案することで、新しい価値観をもたらせるよう取り組んでまいります。そして、「五感の生活」は、「人間の生きがい」を追究することにより社会課題を解決しようという決意を表しています。それが、私たちがただで成し遂げられるのではなく、お客様、ご家族、取引先など全てのステークホルダーの参加が必要であると考えています。皆様と「五感の生活」のイメージを共有し、共にチャレンジしていくことで、社会課題の解決を実現していきたいと考えています。



アクタガワグループ25周年の沿革

- 1999年 ● 「株式会社スタッフ・アクタガワ」を設立(介護事業を開始)
- 2003年 ● ISO9001の認証取得(静岡県内の民間の介護保険事業者として初)
- 2004年 ● 人材紹介・派遣事業、福祉用具販売・レンタル・住宅改修事業を開始
- 2006年 ● 静岡市より八幡山地域包括支援センターを受託
- 2008年 ● 財静岡経済研究所が選ぶ「静岡の革新企業101社」に選出
- 2011年 ● 静岡県信用保証協会「BCP特別保証」を取得(県内介護事業者として初)
- 2013年 ● 「株式会社アクタガワ」に社名変更、「プレミアムハートライフ」「ハートライフ」「ハートフルホーム」の3ブランドに整理し、静岡県内に事業展開開始
- 2015年 ● 「静岡市女性の活躍応援事業所大賞」を受賞
- 2016年 ● 「静岡市CSRパートナー企業」認定
- 2017年 ● 子育て事業を開始し「へんぎん保育園」を開設
- 2018年 ● 「株式会社アクタガワホールディングス」設立、本社移転 EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー「アントレプレナー賞2018」受賞
- 2019年 ● 経済産業省「ダイバーシティ経営企業2019」受賞 人材紹介・派遣事業を「株式会社アクタガワHRM」として設立
- 2021年 ● 厚生労働省より女性活躍企業「えるぼし(三つ星)」に認定
- 2022年 ● 「株式会社リジョン・フォース」を設立し「静岡老人ホーム紹介タウンYAYA」高齢者施設への紹介事業開始
- 2024年 ● 「株式会社ファイブセンス」を設立し、五感の空間事業を開始、ペーカリーレストラン「AYUKAWA」開設、「株式会社櫻ブレイン」を子会社として統合



豊かで成熟したライフスタイルを提案し、日本の社会課題を解決する

おかげさまでアクタガワグループは25周年を迎えました。私たちを受け入れ、支えてくださった地域の皆様に心より感謝申し上げます。これからもアクタガワグループは、「五感の生活」をブランドスローガンに「生きがい」を追究し、日本の社会課題の解決に取り組んでまいります。

our Vision Akutagawa

